

## マスバランス方式に対する SuMPO の取扱い方針

2023/5/15

一般社団法人サステナブル経営推進機構

サプライチェーンを通じて環境価値を適切に流通させることへの社会的ニーズがある。環境価値としては、認証材料（オーガニック、サステナビリティ等）、バイオ素材、リサイクル素材、CO<sub>2</sub>排出量等が挙げられる。

環境価値のサプライチェーン流通方法として、マスバランス方式が提案されているものの、一長一短のある方法である。具体的には、カーボンニュートラル移行期間においては現実性の高い方式という意見がある一方で、グリーンウォッシュと見なされるリスクがある。

一貫性のある社外対応をすることを目的として、マスバランス方式に対する SuMPO の取扱い方針を以下の通り定める。なお、マスバランス品を供給するメーカーの立場と、マスバランス品を利用する立場の両方があるものの、ここではマスバランス品を利用する立場での取扱い方針をまとめる。

**ただし、SuMPO 環境ラベルプログラムやカーボンフットプリント包括算定制度での取り扱いは個別に定める事とする。**

### ■ マスバランス品を利用する立場でのマスバランス方式の取扱い方針

以下を基本方針として、個別に判断をする。

#### 1. 認められるマスバランス方式

(ア) ISO22095:2020 - Chain of custody に規定されたマスバランスモデルに相当することを前提とする。ISO22095:2020 に基づき、時間的な有効範囲は1年以内とする。

(イ) マスバランス方式のうち、バッチレベル（特定製造バッチ単位）は認める。

サイトレベル（特定工場単位もしくは特定施設単位）は個別に SuMPO が判断した上で認める場合がある。

グループレベル（組織・地域・国などのグループ単位）は認めない。

(ウ) 環境価値のダブルカウント\*を予防する管理がなされていること。

\* マスバランス品の非利用者に対して、環境価値が含まれないことを示しているか。

#### 2. マスバランス方式を利用した表記・コミュニケーション方法

(ア) マスバランス方式を採用したものであることを示す。

(イ) マスバランス方式は取引上、環境価値を向上させた製品であり、実際の製品の性質とは一致しないことを示す。

### 3. 取扱い方針の見直し

(ア)国際標準化機構 (ISO) や GHG プロトコル等のグローバルスタンダードの動向等を踏まえ、適宜この取扱い方針は見直しを図ることとする。

#### ■SuMPO 環境ラベルでの取扱い方針

マスバランス利用は現時点で不可としている（少なくとも 2023 年度は不可）。国際的な情勢をふまえ今後判断していくものとして、将来的な導入については引き続き検討していく。

#### ■SuMPO/第三者認証型カーボンフットプリント包括算定制度での取扱い方針

現時点で実績がないものの、マスバランス利用は積極的に認める方針を考えている。本取扱い方針をもとに、要求事項の検討を進めている。

以上